

古事類苑

器用部十四

屏障具二

幌
名稱

〔倭名類聚抄^{十四}屏障具〕幌 唐韻云、幌胡廣反、上聲之帷幔也、

〔箋注倭名類聚抄^六屏障具〕古本新撰字鏡同訓○中蓋可閉戶之處、張之以取明也、今俗長暖簾之類

也、○中文選雪賦、月承幌而通暉、注引文字集略云、幌以帛明牕也、

〔伊呂波字類抄^止雜物〕幌トハリ帷幔也、 幃 幃已上同幃亦作胡禪帳也

〔易林本節用集^登食服〕幌トハリ帳トハリ帷

〔和漢三才圖會^{三十二}家飾具〕幌トハリ音黃 和名 止波利 俗云暖簾ウレシ

唐韻云、幌者帷幔也、以布棉爲之、其幅無定、市鄜每戶懸幌、記屋號及所賈之品類者、卽幌之屬也、

〔倭訓栞^{前編十八}登〕とばり 日本紀に帳をよみ、古事記に幕をよみ、和名抄に幌をよみ、常に幔をよ

めり、戶張の義也、今いふ暖簾の類也、雲のとばり、霧のとばりなどよむは、見たてたる也、とばりあ

げは、褰帳をいふ、玉葉集に、今上御卽位の時、大納言三位とばりあげつとめて、上階して侍りし時

申つかはしける、

高みくら雲のとばりをか、ぐとてのぼるみはしのかひもあるかな

〔日本書紀^{十二}履中〕八十七年正月、大鷦鷯天皇崩、皇太子自諒闇出之、未卽尊位之間、以羽田矢代宿禰之

女黑媛欲爲妃、納采既訖、遣住吉仲皇子而告吉日、時仲皇子冒太子名、以軒黑媛是夜、仲皇子忘手鈴